

あこう

社協だより



特集

- 地域みんなで！災害に強いまちづくり…… 2 P
- 上飯屋たすけあいサロン…… 4 P
- 福祉協力校指定事業の取り組み…… 5 P
- 手から手へやさしさのおくりもの…… 6 P
- あこう福祉ニュース…… 8 P
- 受賞のお知らせ・サロン紹介…… 9 P
- 学生の視点から見た社協…… 10 P
- 給食サービス事業紹介…… 10 P
- ふれあいの家 わたしんち…… 11 P

『坂道』

旧御崎小学校へ通った坂道です。
放課後も走りまわっていたことを懐かしく思いながら描きました。

(広報委員長 村下)

支えあい 助けあう
こころつながる
やさしいまち あこう

今年の8月だけでも、丹波市・京都府・広島県と相次いで大雨による被害が出ており、いつ発生するか分からない災害への備えが大切となっています。一連の災害を通じ、高齢者や障がい者、乳幼児等の方々（災害弱者）が災害時に直面する問題の大きさも再認識させられました。

日頃の生活から隣近所でお互いを知り、「おはよう」「元気にしていますか？」等のあいさつから、いざという時に安否確認や避難誘導ができる、災害に強く人にあたたかいまちを作っていきます。

8月の豪雨災害(丹波市)での被災例より

1

高齢者夫婦



介護する人もされる人も共に高齢でした。そのため介護される人を1人で抱えて避難することに不安を感じ、避難することを思いとどまってしまう、逃げ遅れました。

過去の災害では、高齢者や障がいのある人たちが様々な困難に直面しています。一人ひとりの問題として考えてみましょう。

2

視覚障がい者



水が触れて初めて床上浸水の発生に気付きました。避難所へ避難する際にもすでに道路の冠水が始まり、どの道が安全かの判断もできませんでした。

災害時に避難が困難な人を事前に把握するために、赤穂市では「災害時要援護者名簿」の整備に取り組んでいます。寝たきりや車いす、認知症などで自力避難の難しい方が登録の対象となります。希望者は、地区の民生委員児童委員を通して赤穂市社会福祉課（☎43-6809）まで。

災害発生時、消防車・救急車がすぐに駆けつけられるとは限りません。そのようなときには、隣近所の助け合いが大きなカギを握ります。
阪神淡路大震災で倒壊した建物の下敷きになったり閉じ込められた人のうち、生存して救出された人の約6割の人が、家族や隣近所の人に救出されています。

福祉マップづくり

実際の地域内の地図を使用し、地域内で支援が必要と思われる世帯を把握し、情報を共有するために、福祉マップ作りに取り組んでいる地域があります。これも大切な地域福祉活動です。

日頃からの見守り活動

家族だけでは災害弱者本人を支えきれない場合、近隣住民同士で日頃から見守りを行っていくことが重要です。災害時にはまず自身の身を守り、また地域の中で人と人が協力して助けあうことが大切です。

災害時の赤穂市社協での 取り組み

赤穂市社会福祉協議会では、大規模災害発生時に市災害対策本部からの要請を受けて災害ボランティアセンターを立ち上げます。

災害ボランティアセンターでは、被災された方等のボランティアの助けが必要な方の要望を伺いながら、ボランティア活動者とのつなぎ役を担います。また、活動に必要な資機材を準備したり、ボランティア保険の加入手続きも行います。



8月16日から大雨により、8月19日に丹波市社会福祉協議会に「災害ボランティアセンター」が設置されました。赤穂市社協では、以下の支援を行いました。

8月18日	資機材搬入	2名
8月20日～21日	災害ボランティアセンターの運営支援	1名
8月24日	〃	1名
8月26日	相生市社協と合同でボランティアバス運行	22名
9月8日～9日	災害ボランティアセンターの運営支援	1名

災害ボランティア登録者募集！

赤穂市ボランティアセンターでは、災害時に迅速にボランティア活動を行うことができるように、災害ボランティアの登録を随時行っています。

平成26年10月末現在、57名の方に登録していただき、年1回の災害ボランティアセンター開設訓練や被災地へのボランティアバス運行等の際にご協力いただいています。

あなたの力を是非お貸しください！

○登録・問合せ先

赤穂市ボランティアセンター (☎42-1397)



今できることを考えよう！

～災害ボランティア研修会のご案内～

日 時：11月29日（土） 午前10時～11時30分
場 所：赤穂市総合福祉会館 3階集会室
内 容：講演：あの日から“今”へ ～from 3.11～
講師：関西福祉大学社会福祉学部3回生
田中一雄氏

参加費：無 料

※詳しくは、社協（☎42-1397）までお問合せください。



地区住民の手で地域に根ざした活動を!!

上仮屋たすけあいサロン

「パートナーサービスモデル事業」は、平成23年度より実施し、現在市内9自治会でモデル実施しています。今回は、2年前に会を発足、活動を展開している上仮屋たすけあいサロンをご紹介します。

上仮屋たすけあいサロンは、現在世話人19名、協力会員11名の計30名が活動の担い手となっています。月に1度の世話人会では、池田代表のもと、活動報告に始まり、地区の気になること、現況など、話題にこと欠きません。また年2回の協力会員との合同会議ではサロンに携わる方々が集まり、情報交換が行われます。



これまでの活動の流れ



○サロンの始まり、そして活動へ

「地区の福祉マップを作り、年代別に色づけされた上仮屋の地図を見ると、少子高齢化は一目瞭然、その時の強い危機意識がサロン発足につながりました」と当時代表だった司波自治会長。世話人会で意見を出し合い住民へ参加を募ると、意気込みを持った方々が協力会員募集に手を挙げてくれました。「話し相手がほしいんやけど…」との相談が世話人に届くと、適任の協力会員が世話人とその方のお宅を訪問。住民の「ちょっと手助けしてほしい」という声に対応しています。

これまでの活動実績

- ・畑の耕運
- ・網戸の張り替え
- ・話し相手
- ・銀行への送迎
- ・公会堂に車椅子常備
(使い方講座実施)

○サロンを行っている中での課題は…

地域住民から「ちょっと手伝って」の声をどう引き出すか、活動を継続していくために、協力会員のやる気をどう保っていくか。住民からの声に受け身にならず、得意技を持った協力会員を発掘したり、支援する側が知識を深めることにも取り組んでいます。



「お帰り」「気を付けて帰りよ」と声をかけて下校時の見守りを行います。

○今後の活動について

春に全戸対象に行ったアンケートでは、『今のところ自分でできているが、災害時や困った時、ぜひお願いしたい』との声が多かったね。さあ、これから活動をどう広げていこうかと池田代表と柏副代表。活動の方向性に試行錯誤が続いています。

世話人会では、現状で何かできることはないかを話し合い、10月から城西小学校下校時の見守り活動を開始、まずは月に1回、4班に分かれて交差点に立ち、帰宅途中の児童たちに声をかけています。

「住民にいろいろな角度からアピールし、まず顔を覚えてもらおう、そしていざ『困った!』と声があがった時のために、活動を長く、地域に根ざしたものにしていこう」と、熱心に活動しています。

福祉協力校指定事業の取り組み

社協では、子どもたちの福祉・ボランティアへの理解と関心を高め、福祉の心を育てるため、市内の小中高16校を福祉協力校に指定し、各校と連携して事業を実施しています。

2学期も多くの学校で活発な福祉教育が行われています。その一部をご紹介します。

また、その他の学校でも下記のとおり福祉教育が行われています。

- ・有年中学校 (6/26 車いすバスケットボール)
- ・城西小学校 (7/11 車いす学習・10/24 高齢者疑似体験学習)
- ・原小学校 (9/17 手話学習・10/10 車いす学習・10/15 アイマスク体験学習)

尾崎小学校4年生

アイマスク体験学習 (10/2)、盲導犬学習 (10/21)、点字学習 (10/23) を行いました。

アイマスク体験学習では、視覚障がい者の三宅さんと目木さん、ガイドの矢野さんにお話をいただきました。同じ視覚障がい者でも、家族と一緒に生活している人やひとり暮らしをしている人、一人で出歩くことのできる人とそうでない人等、それぞれ環境の違う中で生活しているということを学びました。



● (児童の感想文より) ●

● 点字体験を終えて

「点字を打ったり読んだりするのはむずかしかったけれど、ぼくは目が見えて表があったので分かりました。目が見えていなかったらむりだろうなと思いました」

赤穂小学校4年生

盲導犬学習 (10/8)、アイマスク体験学習 (10/9)、点字学習 (10/15) を行いました。

盲導犬学習では、視覚障がい者の清水さんから、目の見えない人が行っている生活の工夫や、盲導犬と一緒にいる場合の介助の方法を学びました。

点字体験では、ボランティアグループ「赤穂点灯会」の指導のもと、自分の名前を点字で打ち、視覚障がい者の目木さんと土井さんに読んでもらいました。



御崎小学校

車いす学習 (10/10 6年生)、高齢者疑似体験学習 (10/14 5年生)、アイマスク体験学習 (10/14 4年生) を行いました。

車いす学習では、車いす利用者の枝川さんに車いすでの生活や夢を持つことの大切さをお話していただきました。また、陸上用車いすに試乗するなど、貴重な経験をすることができました。



● (児童の感想文より) ●

● 車いす学習を終えて

「階段で持ち上げてもらった時、ガタガタしていて不安だったけど、友だちが落ちないように声をかけてくれたので安心しました」
(6年生)

● 高齢者疑似体験学習を終えて

「高齢者が持っている杖って本当に役立っているのかなと思っていましたが、体験をしてみて大切さがよくわかった。手すりやスロープも歩きやすくなって助かりました」(5年生)



手から手へやさしさのおくりもの

～赤い羽根共同募金に、児童・生徒をはじめ、多くの方にご協力いただきました～



赤穂小学校（イオン赤穂店）



城西小学校（ラ・ムー赤穂店）



塩屋小学校（主婦の店塩屋店）



赤穂西小学校（JR天和駅）



尾崎小学校（主婦の店尾崎店）



御崎小学校（主婦の店尾崎店）



坂越小学校（JR坂越駅）



高雄小学校（高雄ふるさとまつり）



有年小学校（有年ふるさとまつり）



原小学校（JR有年駅）



赤穂中学校（イオン赤穂店）



赤穂西中学校（主婦の店塩屋店）



赤穂東中学校（主婦の店尾崎店）



坂越中学校（JR坂越駅）



有年中学校（ファミリーマート赤穂ちくさ川店）



赤穂高等学校（JR播州赤穂駅）



関西福祉大学（イオン赤穂店）



赤穂ボランティア協会（イオン赤穂店）



てんとうむし（イオン赤穂店）



介護者の会（主婦の店赤穂店）



ボーイスカウト（イオン赤穂店）



共同募金委員（イオン赤穂店他）



民生委員児童委員（イオン赤穂店他）



社協職員（フレスポ赤穂店他）



奉仕者 延 582 人

総 額 524,088 円（10月31日現在）

ご協力ありがとうございました。

まち発見！ あこう 福祉ニュース



気軽に楽しく伝え合う



8月23日、赤穂ろうあ協会の中村千穂氏を講師に迎え、「夏休み手話教室」を開催し、15名が参加しました。“きこえ”の仕組みや耳が聞こえない人の生活等、当事者の立場からのお話がありました。また、自分の名前を手話で表現する等、楽しく手話で伝えるということ学びました。

オトコの料理で自立した生活を



10月21日、29日、11月8日の3日間、「輝くオトコの生き方講座」を開催し、60歳以上の男性15名が参加しました。調理の方法や食材の選び方等の料理の基本から、ご飯の炊き方や簡単なおかず、自分のための晩酌のアテをグループごとに調理しました。普段は調理をすることができない人も、料理の楽しさを感じることができました。

夏休みにしかできない体験を



8月6日、「サマーボランティアスクール2014」を開催し、小学3年生～中学2年生までの26名が参加しました。午前中は点字学習で点字の基礎を学び、午後はサウンドテーブルテニス体験を通じて視覚障がい者の方との交流を行いました。体験後には午前中に学んだ点字でお礼の手紙を書き、視覚障がい者の方へ届けました。

秋の六甲山を満喫



10月17日、在宅重度心身障がい者(児)激励事業として、リフト付きバスでの日帰り旅行を実施し、参加者・ボランティアスタッフ等合計25名が参加しました。

秋の六甲山に肌寒さを感じながら、六甲山の上美術館「さわるみゅーじあむ」や六甲山牧場へ行き、旅を楽しみました。

まごころを弁当箱に詰めて



10月18日、ひとり親家庭とひとり暮らしの視覚障がい者を対象とした「ひとり親家庭サポート事業(給食)」が行われました。この事業は毎月第3土曜日(8月、1月は休み)の昼食に希望者へお弁当を作りお届けし、大変喜ばれています。9月より新たなボランティアが調理を担当しており、活動者を募集しています。



受賞のお知らせ

平成26年度ひょうご県民ボランティア活動表彰式（11月5日 兵庫県公館）の席上において、長年のボランティア活動において地域コミュニティの向上に顕著な功績をあげられた団体に表彰状が贈呈されました。

ひょうご県民ボランティア活動賞（敬称略）



レディースボランティア

（昭和54年4月設立）

老人福祉施設での利用者の車いす介助や健康体操の補助、市内各所での清掃活動などを主な活動として行われ、「自分たちにできることを」と活動されています。



ひのきしん

（昭和55年4月設立）

老人福祉施設と知的障がい者更生施設でそれぞれ月1回清掃活動を行われ、「活動できることに感謝する心」を持って、会員同士の交流もかねて和気あいあいと活動されています。



朗読ボランティアグループ来夢

（昭和57年1月設立）

毎月の「広報あこう」や毎週の「赤穂民報」などを読んでCDに録音し、視覚障がい者に定期的に送付されています。また、自主朗読講座を開催されるなど、技術向上にも力を入れて活動されています。

受賞おめでとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

ふれあいサロン元塩

9月17日、「観月のつどい」と称してサロンが開催されました。

この日は、スタッフ手作りのちらし寿司や桜餅が振る舞われ、参加者の方はあつという間に完食。また、健康体操や大正琴に合わせて歌をうたったりと、内容盛りだくさんのサロンとなりました。

参加者は「みんなと歌をうたったりお話しするのが楽しみで、毎月楽しみにしています」と話していました。

ふれあいサロン元塩

開催日：毎月第3火曜日 午前10時～
場 所：元塩集会所・元塩公園

いきいき サロン紹介

新町サロン

新町サロンは平成21年10月に開設されたサロンで、老人会のメンバーを中心に月1回お茶の作法を学びながら懇談を行い、交流を深めています。

8月17日はお盆ということもあり、時間になっても数名しか集まっていませんでしたが、それぞれが電話をかけたり声をかけ、いつもの顔ぶれが揃いました。

参加者からは、「家で過ごすよりも、ここに来る方が楽しい」という声が聞かれ、みんながこの場に集まって色々な話や、情報交換をすることを楽しんでいきます。



新町サロン

開催日：毎月第3日曜日 午後1時30分～
場 所：新町集会所・新町公園

学生の視点から見た社協

社会福祉士を目指す学生4名が、8月27日～10月17日の間、赤穂市社協で社会福祉実習を行いました。

関西福祉大学 社会福祉学部
3回生 谷川 翔馬さん



「自分が住んでいるまちでは、どのような福祉活動を行っているのか」を知ることが目的に、社会福祉協議会での実習を希望しました。実際に共同募金をはじめとする事業に、民生委員児童委員やボランティア、学校などと連携し、取り組んでいることを学びました。一見するとあまり関係がないように見えて、実は密接に関係していることもあり、新たな視点を持つことができました。

この1ヶ月の実習で、自分にできること・できないことを明確に感じることができました。この経験を活かしていきたいと思います。

関西福祉大学 社会福祉学部
3回生 稲岡 茉耶さん



実習では社会福祉協議会が行っている地域支援活動・個別支援活動等、様々なことを学ぶことができました。特に街頭募金では、地域住民の温かさを感じるとともに、一人ひとりの思いやりが集まると大きな支えになるということを知ることができました。

その中で人と関わり、多様な価値観があるということに気付きました。価値観が違うからということで自分の価値観を押し付けるのではなく、相手の思いを受け止め、課題解決の方法を一緒に考えていくことの大切さを学び、これからもこの学びを忘れずに勉強していきたいと思っています。

関西福祉大学 社会福祉学部
4回生 多嘉良梨沙さん



実習生として学んでいく中で、キャップハンディ学習は子どもたちにとって身近な福祉を学ぶ貴重な機会となっていると感じました。高齢化社会の影響もありますが福祉が身近なものになってきており、社会を理解する上でも、思いやりの心を育てる上でも「相手の気持ちを理解しようとする」ということは大切なことだと感じました。

その他の事業にも参加し、生活課題を持った方と地域をどう繋げていくのかを学ぶことができ、これから社会に出て多くの方と関わる中で役立てていきたいと思っています。

関西福祉大学 社会福祉学部
3回生 藤原 稔文さん



社会福祉協議会の実習では、多分野にわたる事業に参加することができました。その中で、どのような方が利用され、どう生活しているのかを知ることができたのはもちろん、利用者・支援者両方の目線から見ることの大切さを学びました。

この1ヶ月間を通して、事業を行うことによって起こる地域住民への影響を知り、ニーズに応えることの重要性を知りました。自分もいつか支援者として、より良い地域づくりに携わりたいと思えた実習にすることができました。ありがとうございました。

給食サービス事業紹介

社協では、市内に居住しているひとり暮らし老人及び高齢者世帯等を対象として健康増進と地域社会との連帯感を深めることを目的として、平成4年より給食サービス事業を実施しています。

現在は市内9地区において、地域福祉推進連絡会等の協力のもと、公民館などを拠点に年間7,036食（平成25年度実績）ものお弁当が作られています。

今回は2つの地区をご紹介します！

赤穂地区
10月10日

一つひとつのお弁当に心を込めて、手分けして丁寧におかずを詰めていきます。



各月の担当者が手作りした手紙を添えて各世帯へお届けしています。



塩屋地区
10月24日

みなさんで手分けして、手際よく調理され、お弁当が出来上がります。



塩屋地区では、ボランティアのみなさんが調理を行っています。



(お問合せ) 赤穂市社会福祉協議会 (☎42-1397) まで

ふれあいの家 わたしんち

『わたしんち』は築80年の古民家を活用した小規模デイサービスで、介護が必要な方が介護保険を使い、自宅に近い環境で、普段の生活の中でできることを一緒にし、ゆったりと一日を過ごしていただけます。

また、介護が必要でない方も、買い物の途中に立ち寄ったり、気軽に来ていただけます。

お友だちがいて、役割・やりがい
生きがいがあれば
いきいきした笑顔が生まれます！



今年は緑のカーテンとしてゴーヤを育成し、できたゴーヤはチャンプルにして、みんなでお昼に食べました！



←千種の苑で行われた作品展にも出品し、多くの方に見ていただきました。



畑の野菜を収穫！

だいこん・小松菜
ちんげんさい など

様々なボランティアさんの支援を受けて

- ・畑作りを教わり野菜を育て収穫
 - ・買い物・習字・絵手紙・編み物・お抹茶・歌・腹話術・手品・ギターやハーモニカ演奏・踊り・ゲームなど
- 地域の皆さんと一緒に生活リハビリを实践中！



芽が出てふくらんで 花が咲いて実がついて……わ～と感動の声…
植物が育つ姿を楽しみに毎日を過ごしています。

ふれあいの家 わたしんち

赤穂市塩屋656-17

TEL : 0791-56-6644

FAX : 0791-56-6631

開設日 月曜日～土曜日

(日曜日、12月29日～1月3日は休み)

午前9時～午後5時

※家族介護でお困りの方、デイサービスに興味のある方、その他どなたでもお気軽に見学にお越しください。



お茶とお菓子で
語り合しましょう

◆ 貸衣裳をご活用ください ◆

社協では、冠婚葬祭用の衣裳の貸し出しを行っています。
 常時多数の衣裳を取りそろえ、皆さんのお越しをお待ちしております。

- 振袖も多数揃えています！
- 特注サイズの取り寄せも可能です！

(受付日時)

月～金曜日 午前9時～午後5時
 第1・3土曜日 午前9時～正午
 ※日・祝日は休み

(場 所)

総合福祉会館2階 貸衣裳室



(お客様の声)
 ・値段も安く、比較的長い期間借りられるので便利だった。
 ・セットで貸してもらえたので、自分で準備するものがなく助かった。

～あここの ホツと ぼ人～

No.1

Q. 活動を始めたきっかけは？

A. 地域活動に参加し始めたのは、56歳で自治会の組長になったことから始まったように思います。現在は自治会長として地区で忙しくしています。平成22年に松崎さんとモンキーズを立ち上げ、現在は9名のメンバーと一緒に毎週水曜日のお昼から御崎小学校の植木の剪定や草刈りをしています。

Q. 活動をしていて嬉しかったことは？

A. 児童から「おじちゃん、ありがとう」と声をかけてもらったことです。子どもと関わると気持ちが若くなります。

Q. これからの目標は？

A. 賛同者を増やして、地域に活動を広げていきたいです。今のメンバーも大切にしながら、細く長くできることを続けていきたいと思っています。

〔モンキーズでは一緒に活動するメンバーを募集しています！〕
 〔詳しくは、佐藤さん(☎090-6904-6920)までご連絡を♪〕



佐藤正明さん(朝日町)
 とモンキーズの皆さん



編集後記

10月19日(日)に行われた塩屋・尾崎のお祭りは良いお天気に恵まれ、関係者としても楽しい一日になりました。

社協だより臨時特集号も21回目の発行となり、今までのものを見返していると懐かしく思います。個人的には、紙面を写真から見ていただいているのを、まずは文字を読んでから各自で状況を思い描き、それから写真を見ていただくと変わった見方ができるのではと思っています。(広報副委員長 浜野)

『ストップ・ザ・無縁社会』
 全県キャンペーン展開中！
 ～『無縁社会』から『支え合い社会』へ～

※赤穂市社協は、兵庫県内の社協とともに、『支え合い社会』を目指します。



ご意見・問合せは

社会福祉法人 赤穂市社会福祉協議会

〒678-0232 赤穂市中広267番地

電話 0791-42-1397

FAX 0791-45-2444

赤穂社会福祉協議会 検索

赤穂市社会福祉協議会で検索してください

